度を否認するを目的として結社を組織し又事情を知つて、之れに加入したる者は十年以下の懲役又は禁錮に處す」と明記してあつた、其翌年(大正十四年六月)に司法省と內務省が合議の上治安維持法の解決を發表した、其中に「國體とは主權が天皇に在ることを意味するものであるとされてゐた」之れは要するに右明治時代の國體其まゝではなからうか、斯く主權が君主にあることは今更我日本だけではない、イギリスだつてイタリーだつて同樣だ、爾來我國に於ては前述(第三部)に記する如く歐洲各國では王位の獲得は强者は弱者を倒し氏族國家を破壞して征服國家を成立したが、我日本では原始の頃より君主と人民の間に血族關係を保ち永く萬世一系の皇統を戴き天照大神はこの氏族の長者でありて、如何に世界民族より優越し日本國民は科學的に皇胤であることを立證してゐる。

× × × ×

斯く皇室將又民族等は世界無比であるを解することが出來る、故に決して世界共通とは論ぜられない、尙皇室を全國民の宗家とす之を以つて民族團結の基礎となつてゐるが爲め、天皇政治の眞義は、國家主義の根本思想に基き、道德主義、人情主義の政治を行ふことであるべきだ、國家主義とは天皇大御心を國體全體に一致すべきであり、道德主義は、天皇大御心の祖宗の神靈と、祖宗の子孫の心とに合體せしむべきであり、而して、人情主義は天皇の大御心を現在の全臣民と堅く心魂を結合することであり、即ち、道德主義は時間

的に、天皇の大御心を臣民に擴充推及し、人情主義は空間的に、天皇の大御心を臣民に擴充推及するの心あり、是の義が、窮極するところは國家主義をなすのである。斯く天皇の大御心を國家全體に擴充推及するのであつて、それ故に我天皇政治の眞義は窮極すれば即ち『君民一體主義』であつて、天皇政治は君主主義でもなく民主主義でもなく、實に「**君民一體主義**」である、之れ抑も我國國家成立の根本に發するのであり、君民同祖の事實に發するのである、斯樣なる意味の下に君民は同一の生命であり、平時に於ては天皇と臣民との感情は常に一致融合し、天皇は吾々臣民を赤子の如く愛し給ひ、臣民は天皇を父母の如く敬慕し而して天皇は國家の爲めに、臣民は天皇の爲めに、我日本帝國が成立した所以である、故に本聯盟は優越せる右『君民一體同祖』の下に「**天皇中心主義**」を奉じ飽迄も君民の爲めに、祖國の爲め全大衆の支援の下に細胞的に同志の心魂を結成し「社會的」に第一歩を踏み出した所以である。

(2)

時代を錯覺せる國體論は我國家の安泰を傷く社會主義萬事非にあらず、國粹主義凡て是にあらず

國政の慢性的疾患に大手術を要す

現下の資本家の資力の逆用と、勞働者の危險分子等に反省を促し更に論及して在來の如く、時代を錯覺せる國體論は我國家の安泰を傷くことを前提となし、社會主義萬事非にあらず、國粹主義總て是にあらざることを釋明し、說述鋭く結果の收穫率や効果に着眼し眞の愛國の叫びの下に、國礎の益々擴大强化を圖る意味に常に發芽せる民心を蹂る彈壓政治、その根源たる國政の慢性的疾患の大手術を施し、而して社會の缺陷を除去せんと茲に「**合法的急進社會改良主義**」を强張し、右混亂の巷に亂鬪を續く彼等に覺醒と反省を求め、忌憚なく極めて公明正大に、全大衆が常に胸裡に潜め、吾々が云はんとして居た現社會の怖ろしき醜いヒヤ〳〵する表裏を公表する機會が、遂に僕の意中を左右にペンを執らしたのであつた。

世のマルクスボーイは口を開けば、最早資本主義經濟の末期だ、資本生產の行詰りだ、斯く第三期に入ると愈々崩壞の道程に急いでゐるのだと冷笑を浴せかけて居るが、各國の資本主義經濟もこの第三期に到達したか、就中我國に於ては最早や末期に入つたか、即ち資本主義生產には恐慌が免れぬと云ふが、社會主義生產に於て果してよく需給の投合と不足が誰にも漏れなく圖られ得るか、又社會主義經濟に於て、假りに財の

分配は宜數を得ても、財の生產が今日の「**資本主義經濟**」の如く多種多方面に亘つて發達し得るだけの要素を包含して居るか、等の種々の疑問の數々が次から次へと敎えてくれるのであるわけだ。

今や勃興する危險思想中の危險思想と呼ばれてゐるものにボルシエヴイズム、所謂共產主義であるが、それに對抗して立つたものにフアスシズム所謂國粹主義は他國では右傾ボルシエヴイズムとも云はれ、我國では過激思想とも危險思想とも名づけられて居ない。だが其實はボルシエヴイズムが（暴力革命）に依つて政權を奪ひ獨裁政治を行ふ勞農主義、ソヴイエチズムであるに對し、フアシズムはクーデター（直接行動）に依て政權を奪ひ獨裁政治を行ふ勞働主義、サンヂカリズムである。右フアシズムがボルシエヴイズムと異る所は、即ち階級主義の特徵よりも官僚主義の色彩がより多く濃厚であるといふにある。寧ろ國粹主義、忠君愛國を自稱し、フアシズムをイタリー國粹主義と唱ふるならば、ボルシエヴイズムはロシア國粹主義とも云ふべきだ。所が近時右ムツソリーイズム、ボルシユイズムの渦中にスターリニズムの躍動だ。

× × × ×

右之等の極端なる獨裁主義が相亂れて今や世界民衆の視聽を集め、思想界を席捲してゐるべき現狀だ。茲に之等左右兩翼何れが優劣なりや、我々人類に何れの主義が安泰と幸福を齎すものか。尙本聯盟は右極左と何故に理論鬪爭を續けなければならないのか、次に超急進的愛國を熱叫する本聯盟の叫びや、歩みが如何な

る點が在來各所に散在せる幾多の右翼派や國粹黨との相異は何れに發見せらるゝや。その態度を明かにして左右兩翼の論評を下し、何れに眞理あり、その長短と功罪を述ぶ、極左の叫び强ち萬事非にあらず、極右の躍動必ずしも是にあらず、唯要するに極左の叫びや行動が餘りにも極端なるマルクス唯物主義や、レーニンの共產思想に盲從して吾々人類の情誼を蹂りたり我祖國の變革や破壞を企てんと鬪爭主義の胸裡に怖るべき思想的メスが閃めいてゐるべきだ、而して不斷彼等は巧みに無產運動に隱れて赤化思想侵潤に農村、漁村、山間と限りなく思想的毒瓦斯を放ち、更に各所で煽動し爭議の暴動化を企つ、右反面之等の壓力を好餌に一部幹部は純眞なる勞働者を踏臺にコツソリ裏に廻り、密かに書中ブローカーを働き口に無產黨を叫び「**懷ろに巨萬の富を**」蓄積せる者も實に少くないやうだ。

× × ×

斯くして彼等の同志も我等の祖國も滅亡の過程に突き落さんとする感あり、遂に涙を呑んで全大衆の爲め「**血で血を洗ふ同志打**」を開始せなければならぬやうになつた。だが我々は故なく彼等の主義行動に對して否認や反對をせんが爲の反對はせないのみか、寧ろ露骨に云へば、現在の社會制度や、經濟組織其他時の政府の執れる行爲に對して全體的に甘受は出來ぬのみならず、可成の不滿の數は全大衆と共に抱いてゐる。ところが彼等の唱ふる「**破壞は飽迄も建設の前提**」と信じられない。續いて近時國粹黨に屬する右

翼派の行動を忌憚なく論破すれば、皇室中心主義や國家中心主義を高調し、躍動を續くるは實に吾々に至つても邦家の前途一層心强き感あり、其眞情實に涙ぐましく、大いに贊意を表すべきだ。だが之等一部の人は主義の濫用や利用に用ひたり、中には暴力行爲に出でる爲め社會の疑惑を招き同情を失ふ傾きがあり、尙之等の多くの人は、餘りにも時代の動きや人心の推移、洞察を缺く嫌ひあり、飽迄も保守主義に固執して、徒らに感情的や傳統的に囚はれ尙稍々もすれば論據の薄弱なる苦しい理論の下に全大衆と迎合せんと、至る處で右、國旗と赤旗が亂れ飛び、口に筆に、鬪爭、亂鬪を繰り返し夫れがため大衆の腦裡に何れの叫びが是非や一層深く昏迷と迷妄に導かれつゝある現況だ。斯く左右兩翼の叫び何れも長短あり、之に獨斷を下せば、左翼派は智能犯で右翼派は暴力犯であるとでも云はうか。玆に兩翼を對比し事の善惡を除き、極左の行動が餘りにもその分量の多くが、我國體に害惡を及ぼすに究極するに基き遂ひに本聯盟が立つたのである。だが一步進んで靜かに觀察する時、常に政府は彼等に對し、如何なる態度を執つてゐるか、又彼等極左を一體誰が世に生んだのか、見よ限りなき彈壓政治、官權橫暴の聲到る處に流傳されてゐるではないか、この肝腎の國政の缺陷を外に、恰も今將に延びんとする草木を踏み蹂るが如く、幾ら踏み蹂られても、芽のある草木は後から後からと新芽を吹き、而してその都度鍛錬された健全な草木となつて現はれるのである。故に徒らに發芽せる民衆の行動を阻害したり、尊い民心の動きに抑壓を加ふるの結果、夫れに對し益々反動的に國家を呪ふ者漸次續出と共に繁殖し、忽ちにして反國家主義を熱叫するや周章狼狽し、更により以上强烈なる彈壓

を加へることに腐心する狀態だ。斯くして『**當局自ら反國家主義者を造造**』しつゝあるの餘波畏くも我皇室に累を及ぼさんとせる實に見逃すべからざる現狀である。

故に本聯盟は眞に熱烈なる憂國を叫び、之が徹底化し、其効果や收穫率を要望する意味の下に「一部國制の慢性的族患の根原を極めて合法的に大手術を施し」漸進的に其病源に手當を施して、總ての惡弊を除去し而して改善と改革を加へ完全無缺となし、國內の動靜を鎭め、人類本體の常道に立還り、善處して益々吾々の國礎は吾々によつて堅固にし、更に國民の安泰を確保して、國內の統制を期せんとする本聯盟の急進的超愛國の叫びが、明らかに潛在してゐるをわかるであらう。故に本聯盟は「時代を錯覺したる「**盲從的國家主義**」は國家の安泰に傷つく虞れあるを感知し、茲に畏くも「**明治天皇の御教示たる取善捨惡の精神に則り**」故なく極左派を排擊し、又は爭鬪を續くるが如き本團體ではない。飽く迄も短所を捨て、長所を選び、且つ學び「理論と現實を綜合」し實行と永續性の要素を包含す實踐的の集團であつて、社會主義者も、國粹主義者も、資本家も勞働者も、其貧富の別なく集合する大衆全體の、我「**大衆國威聯盟**」である。近時の如く右同胞間で鬪爭を續けるといふは、抑も一面に於いて文明を叫ぶ今日封建的時代錯誤であるを發見出來ると共に、甚だ遺憾とすべきだ。何れ貧富の別なく「**落つれば同じ谷川の水**」ではないか、故に不自然なる罪惡的慾望を除き、尊い自己の良心の敎ふるまゝに、人生生存上の最大の「**精神文明の獲得**」に萬難を排し、遂に現下の亂世に嘲笑を浴せ、茲に一部本聯盟の眞隨を明らかにした。

(3) 國家の恩惠を閑却せる亡國資本家と
發芽せる民心を蹂る彈壓政治は

累を皇室に及し右反省を促す

我同胞愛を基調に水平社同人、朝鮮人等に
差別的惡弊を除去し、彼の日、佛、露、
近くはスペインに於ける大衆の壓力を見よ

× × ×

思想國難＝經濟國難と內憂外患の際、誤つた歷代國政と、一部亡國資本家はどう動いてゐるかを前提となし、最早大勢は受動主義か、進動主義か、何れに傾くか、爾來國粹論者の多くは徒に自已のみの安泰性を保ち、餘りの保守主義を執れる傾きがあるが、一方その隙を窺ふ極左翼は智能的に革命の前衛に至る所で爭議の暴動化に秘策を捻り、其の戰鬪武器に「理論鬪爭」を唯一となし巧みに多くの大衆を抱き込まんと思想的毒瓦斯を放散せる折柄この怖るべき左の同胞間の暗鬪は何事なりや。

我々日本國民は、畏くも陛下の赤子として生れながら、未だに到り表に平等を叫び、其實一枚剝り裏を覗けば差別待遇は免れぬ。依然として虐げられてゐるものに、水平社同人及朝鮮人等のあるべきだ。殊に水平

社同人は古の一千年の昔より傳統的に奴隷視されて、殆んど壓倒的に社會より葬られてゐた。ところが最近に至り、之等の人、奴隷反逆の熱烈なる叫びと、壓力を有して全國に散在してゐた三百五十萬餘の之等の同志一擧にして自由なる解放の扉を押破つた。更らに鮮人の問題では、明治四十三年に日韓合併條約が成立し既に新日本人の一員となつた二千萬餘の朝鮮人は、其後我日本の執れる態度に對し敬慕し、眞に迎合してゐるものであるか、頗る疑問を通り越して怨嗟の聲が高いではないか、我々は決して印度やフイリツピン等の獨立運動に嘲笑なんか浴せられぬ。見よ過年水平社同人の奈良縣下に於ける國粋會との抗爭問題、尙果然帝都を焦土化した震災の時、鮮人は如何に活躍したか。諸賢は未だ怖ろしき記憶は耳朶に去らぬであらふ。斯る意味の下に若し國家に動搖を招來した時、常に社會を呪ひ結束極めて强固なる之等二千三百五十萬餘の人即ち現日本の約三割近くの多數の人、一擧に反旗を飜し、且つ前述の如く、同胞間の亂鬪等のその隙に乘じ英米の勢力が進展すれば、一體日本はどうなるか、斯樣にして內憂外患に直面せる折柄、亡國資本家は常に詐取的に蓄積し、强く固く抱擁してゐる。尊い黃金も斯くなれば、一時のロシアの如く、紙幣も紙屑同樣で、價値は奪はれ、一朝にして消失して終ることを忘れてはいかぬ。然るにも拘らず、亡國資本家は常に稍々事業の形勢不利と觀るや、使役してゐる從業員を、忽ち一刀兩斷の下に首切りの開始だ、而して弱者を餓死戰場へ打ち込み、己れは依然として豪壯華麗なる宮殿に等しき邸宅を抱擁し、中には多數の妾宅を圍い、日夜酒池

肉林の間に歡樂の限りを盡し、痴態狂狀を唯一の快樂となし、貴重なる日時を空費するは、實に前途ある我國家や、全大衆に如何なる衝動を與へ、如何なることを敎ふるか、之れ即ち共產運動に妄動したり、尙國法に觸るゝ以上の罪人と共に、怖るべき亡國の遊戲ぢやなくして、諸賢は何んと觀らるゝか。亡國資本家よ、貴下の生命や財產は、一體誰れによつて保護され、又は誰れの力によつて今日の富を獲得出來得たか、決して資本の利殖のみの力ではない。國家の安泰や、我々社會人等の恩惠であることを忘れてはいかぬ。故に右輕擧を鎭め貴下の如き財政的强者は死線に徨ふ弱者に對し「**政府と資本家が協力一致して**」救ひのロープを投下すべきだ。

× × ×

溯つて若し大衆諸賢の中で我國の階級鬪爭なるものはマルクスによつて嚆矢を放されたもの〻如く錯覺する人もあるやうだが、夫れは全然思ひもよらぬことだ、古の頃幕府の壓政と、大名諸公の搾取行爲に對し反動團體が躍動したことは實に爭へぬ事實だ、彼の天草四郎、由比正雪、雲井龍雄、高野長英、吉田松陰、大鹽平八郎、木內宗五郎等を乘り越して幸德傳次郎、田中正造、大杉榮等の彼等の行動は一體何を意味したか之れ即ち近代唱ふ社會主義とでもあらう、過ぐる年明和年間に於いて上州から武州へかけて土地の百姓が蜂起して、暴政の限りを盡す幕府に對し反旗を押立て大衆運動を卷き越したこの事件は天草騷動以來の大騷動

であつた。尙文政年間に於て大名に對し、果然民衆運動が行はれた、この事件は丹後宮津の領內に起きたる百姓一揆であるが、この時の人數は約七萬と稱されてゐたが、この多數の人が城外まで押寄せ城內の重役連を周章狼狽せしめたのであつた。この發端は領主が財政的窮乏の餘り、三年後の年貢前納を申渡し、更に一日二文の人頭稅其他の壓政振りに喘ぎ、如何に領主の命令とは云へと憤り當時百姓共は口を揃へて「他國に行つて乞食するか、飢ゑて死ぬるか外に途はない」と熱叫の餘り、遂にその年の十二月上旬に至り、彼等の憤激は爆發し「**强訴、强訴**」と叫んで大集團となり忽ちにして城外まで押し寄せ見る〳〵內に暴動化したのであつた。以來近くは大正七年八月中旬急激なる米價の暴騰と、平素に於ける富豪階級に對する反感の結果突如震駭すべき米騷動が勃發し政府並に特權階級に最大の衝動を與へた、尙既に(第二部)にて諒承の如くフランスに於てはルイ第十六世は不斷人民に對し暴壓政治を行ふた結果遂に哀れ斷頭臺の露と消えた、續いてロシアに於ても、全國民の大多數を占むる農民の如きは殆んど奴隷視され其上專政と貴族階級の暴壓をうけ夫れが爲め細民階級は實に悲慘の餘り、遂に一九〇五年一月九日有名なる「血の日曜日」の事件を卷き起したそれは日露戰爭による勞働階級の窮狀を訴へて生活の緩和を請願せんとするや忽ちにして二十萬の群衆が各宮前に押し寄せた際皇帝が自ら御姿を現すや、突如軍隊が之等の人民に對し機關銃を亂射した爲め、忽ちにして千名以上の死傷者を出し阿鼻叫喚の修羅場と化した。この日は恰度日曜日であつた關係上、所謂「血の

日曜日」と名稱がロシア革命史上に特筆を與へた、以來帝政は倒れ、共產ロシアが出現したのだ、次に近くは去る四月十四日果然各君主國へ衝動を與へたスペイン皇帝アルフオンゾ十三世は余は國王の權利を放棄せない、唯余は民意の趨向が明瞭になるまで待つのみとの宣言の下に共和制と政變し英國に亡命されたのだ、抑も廢帝となり此の共和制を布かれた起因を探究せば、常に帝位をめぐる權勢家の私爭に禍され、且つ國民の大多數が政治を解するの能力乏しく、全く愚民であつたのと、更に昨年まで八年間議會は閉鎖されリベラ首相の手によつて極度の獨裁政治が行はれ其八年間の暴威が遂にリベラ首相を通じて皇帝の信望を傷つくるやうになつた、ところが此隙を窺ふ赤色分子は好機逸す忽れと共產騷動の火蓋を切るに至つた、上層では帝政派、自由派、共和派の政爭が激しく、下層ではソヴエト、ロシア共まゝの共產思想が漸次繁殖し、愈々收拾すべからざる狀態になつた、斯く暴壓政治を續くるの結果と、國民が政治に對して無關心であつた、此變亂の隙を狙ひ煽動したる結果有力に今回の共和制の實現となつたわけだ。

× × ×

爾來何れの國に於ても騷動や革命の招來する前後には群衆心理、大衆の壓力がどう動いてゐたか、將又その底力が右によつて明らかにされてゐるべきだ。ところが果然!! こんな露骨極まる我等の主義の赤白すら解するの至難とさる論斷を下し、中には常に「**愛國主義**」を熱叫す本聯盟の態度に諸賢の中で聊か驚異と

疑惑の眼を鋭く向けらるゝ人も尠くないと愚かに觀察するのであるが其點に就ては既に說述の如く、我々は徒に在來の『盲拜的國家主義』を選んだり「極端なる社會主義」に合流をしたりはせない、飽迄も結果を實收的に舊來の因襲的や、傳統的の時代を錯覺したる國體論を振り翳す本聯盟ではない、常に世界の動きや、人心の趨勢を洞察して「口には理論鬪爭」に「胸には弱きを援け强きを挫く」心底から眞情を投合して永遠に不變で然も永續性の素因のある「**急進的超愛國主義**」を熱叫し、右他國の歷史や「理論と現實」を綜合し實收的に躍進す本聯盟である、故に輕擧妄動す我が同胞の叛逆者並に資力の逆用を企て我社會に害惡を流し、人心を挑發するの如き亡國資本家並に自黨や自己の感情的に徒に國權を弄ぶ彈壓政治等に修正と覺醒の反省を促して、本聯盟は本質的に最後の必勝と効果を論據に基き玆に社會主義と異る『合法的急進社會改良主義』を主張したのである。

だがこの主義に就いて多くの人の中に社會主義と同一視するやうな人もあるやうだから終りに望んで之等の相違點に就いて釋明する、右「社會改良主義」なるものは經濟の根本原則として經濟上の自由と個人の平等を主義とす、だが個人主義者の如く絕體的の自由を認めない、尙社會主義論者の如く劃一的な平等を主義とせず現時の社會欠陷解決の爲め、勞働者保險法を設け又は强制保險を設け、經濟上ハ自由は法律又は形式上自由でなく、實際上の自由を主張し國の干涉と法律の制限とによりて自由契約を除去し「**無產勞働社會**

の慘狀を救ひ」國民文化の促進を圖るを使命となす、だが社會主義者の如きは社會組織を根本的に改革し私有財產制を廢し、個人の自由を抑壓して一擧に解決せんとするのであるが、「改良主義」は現在の私有財產制はこれを保存し、これより生ずる自由競爭の勢を抑へ、利己心の全滅の期せずして公共心の發達を助け經濟上の自由と個人性の發達を圖ると共に、國家の權力によつて現代社會に適應すべく順次社會問題を解決せんとなし、私有財產の制限で「**破壞でなく、現在の社會組織の改良でありて革命でない**」その見解を混同視されてはいけない、斯樣なる意味の下に破壞主義や、保守主義の中間であり、然も國礎の强化と、國民の安泰性を包有す、之意味の下に右「合法的急進社會改良主義」を主張したのである。

利害にのみ結ばれたる勞資間は何れ最初の利害に戻るは自然的原則か斯く兩者の心底に溫い結びを欠く以上相互の自滅は勿論我産業界に危機孕む之時

(4)

英、米、伊に於ける生産の分配より「心の協調」に移る

我國の經濟界は爾來益々萎靡沈衰の一路を辿り生産消費の減退物價下落、貿易の不振、正貨の流出、破産の頻發、失業の續出殆んど其停止することの至難の折柄、事業の浮沈は資本の力と勞働の力の何れが勝敗の鍵を握つてゐるかを前提として、勞資の關係を述ぶ。資本家並に企業家は先づ資本を投じ、機械や諸般の設備をなし、勞働者と一定の勞賃の契約の下に彼等を使役し、之等から得るところの利益を自由にする。この生産組織を即ち、資本生産又は資本主義と云ふ。奴隷制度から封建制度を乘り越して、現在の資本制度と移り變つたわけだ。

由來吾々人類は殆んど本能的に最少の犧牲を拂つて最大の効果を收めんとする動物である。斯る意味に於て、勞働者は勞を少くして量を多く獲得せんとし、資本家は投下資金を少くして最大の利潤を收めやうとす

るのは必然的の慾求とすべきである。此意味の下に必然的資本家は獨裁主義に推移し、之れに對し勞働者も反動的鬪爭主義を奉ずるやうになつた結果、各所に勞働爭議が勃發するやうになつたのであるが、斯やうに勞資の鬪爭が頻發するやうでは、疲弊悩憊せる現在の産業界が益々危地に陷ることは必定であり、兩者の必然的滅亡は勿論、延ひては國家の消長に大なる禍を及ぼすものであるから、この兩者の鬪爭は絶對に防止しなければならぬ、而して鬪爭に代ふるに協調を以てしなければならぬ。だがこゝに於て考へねばならぬことは現在の産業團體は總てその出發點に於て、肝腎の心の結びを缺き利害問題を主體とした資本家と多數の勞働者によつて造られた團體であるから「**何れか又最初の利害關係に戻る**」といふ天地大自然の法則を忘れてはならぬといふことである。この意味に於てこの協調も只形の上に於てのみの協調でなく兩者の心を基本としたる美くしい人情味ある協調でなければならないことが考へられる。最近歐米各國の勞資關係が「**分配の鬪爭より生産の協調**」へといふ道程を辿り、その計劃を樹て、その運動を起しつゝあることは彼等は最早や鬪爭は過去の夢であり、時流は協調を敎へつゝわることを自覺した結果に外ならぬ。勿論彼等がこゝに到達するまでには色々の原因もあらうが、最も大きい原因の一にはマルキシズム理論の實際的効果についての失望である。今一つは勞働爭義に生々しい痛手を受け、悲慘な姿になつた自分等をハッキリと意識した時、彼等は必然的に同胞相愛の立場からお互ひに相爭ふことの不利益なことを覺り、互ひに手を

執り合つて勵まねばならぬといふ信念が濃厚になつたことである。

右の事情を如實に物語つてゐるのは英國のモンド委員會の創設であつて、彼等は從來の勞働爭議に痛棒を加へ心の協調を力説してゐるが既にその効果は顯著なるものがあつて、創設者アルフレッド、モンド氏が一九二八年十月九日ハーバード大學に於て試みたる勞資協調の大演説中に、『余は昨年十月二日に英國産業界の首腦者より成る著名なる團體と相携へて、勞働組合會議の一般委員會に對し一書を贈り「産業改造及産業關係上の全般に亘る」議論を相共になす爲に會合せんことを申込んだ。この申込は即座に承認せられ産業改造及産業關係に關する會議が開催せられた。この會議は既に二回行はれ、共同小委員會は數ヶ月に亘り活動を續けてゐる。七月四日には暫定共同報告が正式の共同會議で採擇せられ、爾後右報告は、スウアンシーの勞働會議大會に於て大多數を以て承認せられた』とあるやうに、最早や完全に勞資間の問題は「**爭議より協調**」へと推移してゐる。

米國に於ける勞資間の關係は、世界各國のそれと異つて、勞働者の株式所有制度があつて、これが自然的に爭議の域より脱して協調への傾向を辿つて居たので、今更ら事新らしく協調主義を高唱する程の必要もなく、勞資の間は比較的平穩に過されて今日に及んでゐるが、この勞働者の株式所有制度は、各階級の勞働者をして特別な率にて特權を附して會社の株式を購入するを得せしむるもので、この制度には投機的方面或ひ

はこれを悪用することに對して適當なる豫防方法を附したる以外には、何等の制限を加へず、一般株主と同等に待遇して社是に參劃せしむるので、勞働者それ自身が一株主といふ觀念を持つてゐるだけに、會社に起きた如何ある問題にも第三者をして容喙せしむるまでもなく自然的に合議協調さるゝことになつてゐる。

次に伊太利の勞働問題はどうかといふに、ファアッシスト内閣の出現以來、この國も物質よりも先づ精神方面に於て勞資の間を融和せしむべく努めてゐる。尤もムッソリーニの獨裁主義の下に行はるゝ方法であるから各國の精神的協調方策とは、自らその行き方を異にしてゐるが、其根本主張に於て同一であるから、茲に記述することにする。從來各國の勞働問題の解決は物質主義によつて結末を告げてゐる。例へば賃金を高くして勞働時間を短かくし、福利施設を實行し、或ひは間接給與を豐富にする、といふやうな事を以て問題は解決したものと考へてゐた。然るにムッソリーニはこの經濟觀と異つた行き方をして勞働問題に多分に「**精神主義**」を加味した方法を執つてゐる。教養なき勞働者に高賃金と時間とを與へることは、彼等を墮落せしむること以外に何物でもない、といふのが彼ムッソリーニの考へであつて、彼が勞働者の生活程度の向上に反對するものでないことは勿論のことである。只賃金を高くし勞働時間を短縮して彼等勞働者を喜ばす以前に於て、先づ彼等に教養と德性とを與へるといふのが彼れムッソリーニの考へであつて、その實現體として有名なオー、エス、デイー運動がある、これは勞働者に體育、德育、智育、情育を施す一種の「餘暇利用法」

であつて入會資格は勞働者に限られ、會員には特殊の恩典を與へ、技術の練磨、運動の奬勵、音樂慰撫の訓育に熱中してゐる。

右斯樣に現在に於ては、過去の物質主義より脱して、何事に依らず精神力を以て解決せんことに努力してゐる。事程左樣に人間に及ぼす物質の力は薄弱なものであり、精神力は偉大なものであるが故に、吾「大衆國威聯盟」は聲を大にして唯心論を高唱するのである。

(5)

祖國愛の世界共通性を看破し、茲に同胞愛を基調に
國内の統制を保ち統一を期し、極東平和を確立して

歐米進出への第一歩を踏み出せ

◇天候に雨あり、嵐あり、突如强震襲ふ秋あり
◇人類の進路に環境と境遇あり、延いては何れ灰燼となつて清算さるる秋あり
◇一國の柱石に盛衰あり延いては興亡を決す秋あり

× × × ×

世界の思想界は、益々混亂の巷と化し、實に底止するの困難の折柄、我國に於ても之等による思想上の輸入超過は免れ難き現象だ、曰く、社會主義、レーニズム、ボルシエヴイズム、ギルド派社會主義、キヤピタリズム、ステートソシアリズム、ユートピア社會主義、社會民主主義、基督教社會主義、講壇社會主義、マルキシズム、正統派マルキシズム、而して「極左」なるものに無政府主義　無政府共產主義、革命的虛無主義等、之等を數ふれば實に枚擧に遑がない。斯く雜多の思想が輸入された結果、我國に於ては今尙ほ歐米心醉の風潮が漲り、それが爲め西洋の思想の善惡を除き、外來思想の盲拜者や、マルクスボーイの續出する頃

皮肉にも近時全歐米に於ては、信念のハツキリした思想なるものは、オリエンタリズムである。彼の思想は漸進的に、又は潛行的に注入されて、今哉歐米の一部に光を東方に求めつゝあると風靡せる傾向であるべきで西洋文化の沒落の悲鳴を擧ぐるを慌たゞしく聞えるではないか。然るに拘らず幾多歐米心醉者の眞僞實に那邊であるやを疑ふのである。故に我等は如何に急激に時代の推移ありとも、傳統的に血を受くる日本魂の本質、即ち觀念や信念を一層强大にして、而して東西文化の長短を對比し、「**短所を捨て長所を選び**」學びて、君民の幸福と安泰を贏得る永續性と實收的の要素を包含せる「**理論と實際**」を綜合して新文明の創造に努めなければならぬ。之等の點より立脚して、マルキシズムの如く、日本哲學の源流たるハアモニイから見て極めて價値のない大缺陷を抱擁してゐることは、實に寂しく物語つてゐるべきだ。この意味に立脚してマルクスの唯物論に唯心論を對抗すべきは前述の如くであり、續いて資本主義の修正も大いにやるべきだ。だが決して右唯物論のみやコムミニユズム等に盲從は出來ぬ、然し近時著るしく西洋崇拜者乃至歐化主義病は、一も二もなく之等の病魔に犯されてゐるものも實に尠くない、だが最早覺醒の秋だ、右東洋文明即ち我日本の潛行的文明の躍進振りは、今哉世界史上に新らしいエポツクを劃する新日本の威力を投げ與ふのである。爾來我國の思想は、現代西洋の如く唯物に偏せず、又印度の如く唯心に偏せず、「物心を綜合」して實に圓融自在なる境地に向け、左右中央の三つを綜合し、一つの進路を開く如く、思想上にも左傾あり、

右傾あり、中正ある如く、日本の哲學の唯一の特長は、唯心のみを强調せず、又唯物のみ力說せず、この「**二ツの長所を基本**」として、中正の進路を步み、寧ろ一段高く我々人類の自然的要求である「**唯心の分量多く**」選び、永續性を包含す、根本原理を基礎つけて「理論と現實」を綜合して躍進すべきだ。

× × × ×

見よ天候に雨あり、嵐あり、季節に寒風吹き荒ぶ頃あり、猛夏に喘ぐ頃あり、將又突如强震襲ひ、人命を奪ふ時あり、然し之等は實に天災的であるが、一國にしても盛衰あり、將又動搖を招く秋あり、吾々人生の進路に環境と境遇あるを寸時として忘れてはいけぬ。就中一國や人生の盛衰を深く究明すれば平素同胞間の懶惰の結果や、前述の如く階級鬪爭や、又は腦裡に差別的觀念が潛んでゐたり、尙魂の拔けた利害のみの結合は何れか最初の利害に戻るは自然的原則で、故に利害の量を少く離れた精神の結合は永續性の要素を包含するに基く故に、如何なる集合團體でも、社會團體でも、國家團體でも、其結果の盛衰や浮沈は、資力や唯物の力より、人と其信念の力の方が、最後の鍵を把握してゐる意味の下に、資力より心魂の力の方が上位だ、最初と最後に於ても如何に時代が動いても根底たる靈魂は、昔も今も永久に不變だ、だから不斷我同胞、我民族國である我日本民族間に既に脈々として流れ、且つ人類生存上の根底の思索は貧富の別なく、餘り大差はないわけだ、茲に二三の例を擧ぐれば過ぐる年彼の大正十二年の九月、突如帝都を襲ふた怖るべ

き強震の時、不斷の嫌惡も打ち忘れ、貧富は忽ちにして堅く、溫く抱き合つた人　最後の本能性を曝け出した。第二に彼の歐洲大戰の際、極端なる非戰論者であつた社會主義者も殊にイタリーのムツソリーニの如きも非戰論を熱叫したが、自國の危機を知るや、遂ひに硬化し强烈なる國家觀念の下に、社會主義より「**國家主義に轉化**」して祖國の爲め母國の爲めと自ら戰線に起ち、遂に戰勝を期した、だがロシアは日露戰爭の際國內に二派も三派にも人心は分離して、統制を失ふた爲め、あんな慘めな結果を　いた。第三に亡國となつた印度、猶太等は今尙ほ不斷潛行的に「**再建に躍動**」てしゐるではないか。

右之等の點に立脚し、世界國民の祖國愛、人類愛の共通性が、如實に物を言ふてゐるではないか、故に常に人間本體の常道に甦り同胞の心魂を統一し、統制力を把握して、一旦國家に危機孕んだ時國民協力一致君民の爲め、祖國の爲め善處する丈けの覺悟を有し而して進取主義の前衛に極東を一丸にして、有色人の大同聯盟を起して、この壓力を全歐米に侵蝕して有色人對白色人の對立となし、其間必然的日時の長短はあれ欽くべからず、弗のアメリカと心魂の日本との「經濟戰」か「武力鬪爭」か將又一歩進んで「人類愛の融合戰」か、而して最後の世界の覇權の獲得は日米の何れに掌握するかに究極すべきか、これ即ち本書を世に送つた理由と、一部本聯盟の精神であるのである。

大衆國威聯盟

顧問　養生義塾長　内田良平
顧問　陸軍中將　權藤傳次

中央執行委員長　箕浦春浪
財政部長　中尾三郎
書記長代理　中島直人
調譯部長　植本融孝

政策

政治

一、普通選擧の公正と官權金權の干渉排擊並一切の買收候補者連座法の制定
二、政界廓淸の爲に各政黨の黨費の公開機密費の廢止
三、滿蒙に於ける特殊權並に支配權の確保と殖民地開發
四、我國々際的進出を基調とし政府の秘密外交の打破
五、艦船、航空機、其他一切の重要なる兵器製造工業特別保護と同工場の增設
六、軍備の縮少、兵役年限の短縮、兵卒の待遇改善
七、學生、青年訓練所生徒、在鄕軍人に平素軍事教育の徹底と國體擁護の精神涵養
八、官公吏の恩給令改正と戰死、徵兵、廢兵に依る本人並に家族の窮乏に對する扶助規定の制定
九、閑職官公吏の過剩人員淘汰、高級官公吏の俸給値下と下級官公吏特に警察官の待遇改善
一〇、職權濫用、收賄官公吏の嚴罰と極刑法の制定及び寃罪、不當拘束、暴行監禁の絕對撤廢
一一、寃罪不當拘束並に官吏の不當處分に依る損害に對する國家賠償制度の確立
一二、勞働者、農民及び小市民等無產者の訴訟費用の國庫支辨、陪審法の改正其他裁判所制度の改革
一三、勞農ロシアと速時國交の斷絕を斷行し且つ共產黨の徹底的撲滅の爲めの治安維持法の改正と新法の創設
一四、知事公選の斷行と地方分權の確立及び地方自治制の民衆化
一五、一代華族制の採用
一六、司法權の完全なる獨立

一七、言論、集會、結社及び出版の自由獲得
一八、土地、田畑、寺領、私有森林牧場及生產、分配機關の國有乃至公有

財政

一九、財產稅、奢侈稅、蓄妾稅、不在地主稅、別邸の數と坪數に依る特別稅の創設
二〇、所得稅、相續稅、地租、營業收益稅の高率累進賦課
二一、生活必需品消費稅の徹底的減免と生活必需品の關稅其他民衆負擔稅の撤廢
二二、富豪の脫稅嚴罰
二三、ソビエットロシアに對する經濟封鎖の實行

經濟

二四、國家主義的勞働組合の團結權罷業權、團體協議權確立
二五、失業者並に傷害老廢勞働者、農民の生活國家保證
二六、失業者家賃の國庫負擔と失業保險法の制定
二七、整理緊縮に藉口せる一切の賃銀値下、解雇絕對反對
二八、耕作權の確立と肥料の國營
二九、小作法の制定
三〇、農村金融制度の確立
三一、重要食糧品價格公定制度の確立
三二、養蠶保護其他小農保護施設の國家的經營並に農村文化施設
三三、預金部資金運用の民衆化、產業組合制度の改正其他無產階級的金融制度の確立
三四、小商工業者に對する金融機關の設置

社會

三五、義務教育年限の延長、義務教育、職業教育費全額國庫負擔
三六、職業紹介制度の完備と民衆代表の參加
三七、階級、職業に對する封建的賤視觀念の打破
三八、女子の法律的社會的差別の撤廢
三九、女子人身賣買の禁止
四〇、居住權の確立、借地借家法の徹底的改正と公營住宅の建設
四一、診療機關の公有化

大衆國威聯盟
勞資協調促進聯盟

昭和六年六月四日印刷
昭和六年六月五日發行

破壞か建設か大衆よ何處へ行く
定價八拾錢（送料六錢）

著者　箕浦春濵
東京市麹町區元平河町一〇
發行兼印刷者　箕浦信一
大阪市北區高垣町二〇
印刷所　刷新社印刷所

不許複製

發行所　大阪市北區高垣町二〇　振替大阪七八四九二番
發賣所　東京市麹町區元平河町一〇　振替東京三一五九五番

（創立大正十二年）　刷新社

箕浦春浪著

共産主義の錯覺

盲人の象批判は一場のナンセンスである。その一部を見て獨斷を下すが故に途方もない結論に達するのだ。共産主義のイデオロギーが將に之だ。倒錯した末梢神經に依つて人生の眞理を把握したりとなす。然るに焉んぞ知らん、共産主義こそはドグマとソフイズムの住む世界であつた。錯覺に踊る哀れなコムミユニストの姿よ。本書は上から下から、横から縱から之を診て錯覺症に最後のメスを下さんとするもの、讀んで快、味つて眞、又近來の快著たるを疑はず。

近刊豫告（續刊）

東京營業局　東京市麹町區元平河町一〇
大阪營業局　大阪市北區高垣町二〇

箕浦春浪著

左右兩翼の戰塵を顧みて

國家を治むる自ら道あり、然るに今や國粹主義と社會主義鬪爭の戰塵は、模糊として我等の視野を蔽へり、光輝ある極東帝國に生れたる我等、果して行くべき道に迷ふことなきや？ 本書は左右兩翼の鬪爭、功罪を詳述して餘す所なし、之れ淸算を急ぐ混沌たる思想界にこの一書を敢えて送る所以なり。

（創立大正十二年）　**刷新社**

（經濟界の指針）

新刷

本誌は我經濟界に於ける唯一の指針として夙に定評ある高級經濟誌である。世界經濟界の動き時事問題の批判、會社銀行の公正なる業績內容批判並に財界知名の士、學界耆宿の執筆あり、本誌を讀まずして經濟界を語る資格なしと云ふも可なり。

毎月一日發行　定價　金貳拾五錢

東京營業局　東京市麹町區元平河町一〇　振替東京三一五九五番
大阪營業局　大阪市北區高垣町二〇　振替大阪七八四九二番

刷新社

大衆國威

全大衆よ本聯盟の旗下へ

本聯盟機關誌「大衆國威」の指示する所は社會主義にあらず、又資本主義にあらず、國家の安泰と國民の福祉を獲得せんとする「合法的急進社會改良主義」である。

本誌に依つて全大衆の胸底に潜む心狀を把握せよ!!

毎號左右兩翼思想家、各一流博士の論說を滿載す

御申込みは直接左記「振替番號御利用」の上

關東方面は東京事務局へ

關西方面は關西事務局へ

機關誌「大衆國威」發行

一ヶ年前納　金貳圓四拾錢
一部定價　金貳拾錢(郵稅共)
(毎月一日發行)

東京市麹町區元平河町一〇
振替東京三一五九五番
大阪市北區高垣町二〇
振替大阪七八四九二番

大衆國威聯盟